

は慣称を採用している。また現行の国名のみを収録しており、「アジア」「ヨーロッパ」などの地域名や「ギリシア（古代）」「ソビエト連邦」「ドイツ（西）」などの歴史上の国名は、音順標目表のほうに含めている。

### 9章「1. 『基本件名標目表』の概要と使用法」演習問題

次の図書の下線部のことばを、9-1図、9-2～9-5表、章末の抜粋表（9-9表）、および当節の本文中の例示を参照して、最も適切な件名標目に変換しなさい。

- (1) 『わたしの大好きな野菜料理』
- (2) 『新聞記者の仕事』
- (3) 『心臓病の診かた・聴きかた・話しかた』
- (4) 『上手なネコの飼い方』
- (5) 『学校に行けない子どもたち』
- (6) 『俳句歳時記』
- (7) 『英国議会・政治腐敗防止の軌跡』
- (8) 『四季日本の料理：夏』
- (9) 『北京烈烈：文化大革命とは何であったか』
- (10) 『遠洋漁業：お魚おってどこまでも』
- (11) 『移民』という生き方』
- (12) 『ボウリング上達 BOOK：ぐんぐんスコアがのびる』
- (13) 『新書アメリカ史』
- (14) 『サハラ砂漠をゆく』
- (15) 『在日コリアン百年史』

## 2. 件名標目表の見方、使い方

### (1) 参照：直接参照（を見よ参照）と連結参照（をも見よ参照）

211ページの9-1図の件名標目「雑誌」のもとには、「SN」「UF」「TT」「BT」「NT」「RT」「SA」の7種類の記号がある。また、「紀要」という見出し語の右側には「→」がある。各記号の名称は次のとおりである。

これらの記号はBSHにおける語の統制を具体的に示すもので、「→」以外は第4版になって採用された<sup>17</sup>。このうち「SN」を除く他の記号が、BSHの参

- (1)ロイ・カー『ジャズ100年史』
- (2)西川喬『わかるスペイン語文法』
- (3)乾裕幸『古典俳句鑑賞』
- (4)吉田右子『デンマークのにぎやかな公共図書館』
- (5)日本プロスポーツ協会『プロスポーツ年鑑』
- (6)文化財保存修復学会『文化財の保存と修復』
- (7)小林道夫ほか『フランス哲学・思想事典』
- (8)小川嗣夫『卒論・修論のための心理学実験：こうすればおもしろい』
- (9)川合宣雄『中南米ひとり旅』
- (10)小林龍一『映画で学ぶ英語構文120』
- (11)安藤勝『英米文学研究文献要覧』
- (12)石橋崇雄『大清帝国への道』
- (13)真鍋俊二『現代独米関係論』
- (14)法政大学大原社会問題研究所『社会・労働運動大年表』
- (15)高屋定美『欧州危機の真実：混迷する経済・財政の行方』

### 3. BSH による件名作業

#### (1) 件名作業の手順

個々の資料に件名標目を付与する作業の手順は、およそ次のとおりである。

- ①件名標目表の理解（ここではBSH第4版とする）
- ②件名規程の理解（これは本節2項で解説する）
- ③資料内容の把握（これについては6章1節を参照していただきたい<sup>24</sup>）
- ④件名標目の決定

①では、件名標目の採録範囲の把握、標目の表現形式の理解、参照の使い方の理解、の3点が求められる。1点目について、BSHでは特に例示件名標目群と固有名詞件名標目群の把握が必要となる。これらは本章1節2項b**1**で既述している。

④は、③で把握した資料の内容（主題）を、BSHに採録されている件名標目  
 24：6章1節では、資料内容の把握を「主題分析」と呼んでいる。